



「3.11 からの出発」

第 26 回目の小友小学校訪問

6月4日に、松岡享子名誉理事長、小関知子理事と、都内でお話の活動をされている菊地彩さんが、小友小学校を訪問しました。以下その報告です。

新しい校長先生が着任されて初めての訪問でした。前任の校長先生が、私たちの復興支援活動についても引継ぎをしてくださっていたので、スムーズに、これまで通りにお話会をすることができました。また、先生は「この8年間の蓄積は、小友小学校の読書環境に良い影響を与えていると実感できる」とおっしゃっていました。

今回、同行された菊地さんは、ご両親の実家が岩手なので、子ども時代には夏休みを岩手で過ごすのが楽しみだったとのこと。菊地さんは「おきなぐさ」など宮澤賢治の作品を朗読してくれました。自然と出た岩手訛りも相まって味わい深い語りでした。

私たちが初めて小友小学校を訪問したのは、震災の爪跡が生々しい2011年6月でした。図書室に集まった全校生徒と地域の方たちを前に、急遽、松岡名誉理事長が「番ねずみのヤカちゃん」を語ったことを思い出しました。当時の1年生は来春、中学校を卒業します。この活動が地域に根付いて、子どもの読書に心を寄せる人々の輪が広がることを願ってやみません。

小関知子記



「子どもたちに本を贈ろうプロジェクト」



募金をもとに、学校図書館や幼稚園などに、「愛蔵版おはなしのろうそく」や当館発行のブックリスト等を贈る取組みです。「3.11 からの出発」の復興支援を更に広げるために、特別な災害のあった地域への贈呈を最優先しています。今回は、これまでに寄せられたご報告の一部をご紹介します。

「愛蔵版おはなしのろうそく」から、毎日1話ずつ午睡前や食事後に読んでいます。少し難しいときもあるようですが、挿絵が楽しみなようで身をのりだして見る子もいます。中国から来た男の子（日本語勉強中）が毎日「今日だれ先生が読む？」「どこ読む？」と待ちきれないように聞いてきます。
(福岡県・保育園)

西日本豪雨災害で、学校の校舎や図書室が水害にあったので、本を贈ることにしました。授業も遅れているし、学校もいろいろな後始末などで忙しいので、夏休みの図書開館日にお話会をする予定です。
(岡山県・小学校)

みなさまの身近で、本を贈りたい子ども関連施設をどうぞご紹介ください。

→詳しい参加方法はホームページをご覧ください、直接お問合せください。